

文化芸術における創造的活動の研究

造形短期大学部
造形表現学科
准教授

石崎 幸



研究シーズの紹介

文化芸術の分野における創造的な実践は、時代の変化とともに常に進化を続けている。近年では、グラフィックデザインが従来の視覚伝達手段を超えて、舞台芸術の分野にも応用される新たな展開が見られる。こうしたアプローチに注目し、視覚的な魅力の追求だけでなく、舞台芸術の本質的価値を深めるデザインの役割について探求を行った。

具体的な制作物としては、シンボルマーク、リーフレット、パンフ

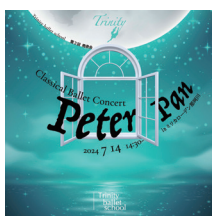
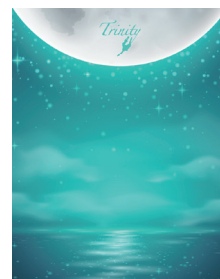
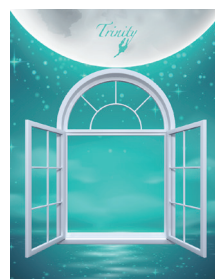
レット、SNS用アイコン等があり、舞台作品の独自性と魅力を視覚的に表現している。これらは単なる広報物にとどまらず、観客が作品世界と接点を持つための重要なメディアとして機能している。

こうしたビジュアルデザインの取り組みは、コミュニケーション手段にとどまらず、創作活動全体を支える役割も担っている。創作者と観客のあいだに新たな関係性を築き、作品理解の深化や鑑賞体験の広がりにも寄与している。



舞台芸術を支える ビジュアルデザイン

- 表現と鑑賞をつなぎ、創作とコミュニケーションの両面で価値を高める。



- a, プログラム冊子
- b, 告知用ポスター
- c, SNS用ビジュアル
- d, チケットデザイン
- e, f 撮影ブース

期待される活用シーン

- 幅広い世代に向けた親しみやすく魅力的なプロモーション
- 舞台の世界観や魅力を効果的に伝える広報手法



- ・統一感あるビジュアルデザインによる印象的な作品PR
- ・舞台関係者間でのコンセプト共有と創作支援

- 「もっと知りたい」「気軽に楽しみたい」「印象に残る体験がしたい」



ビジュアルデザイン
×
多世代対応の表現設計